

経営協議会の審議状況(平成25年度)

事項	審議日(第〇回)	実際の議題名、審議事項名等	備考
①中期目標についての意見に関するものうち、大学共同利用機関の経営に関するもの	第1回	平成24事業年度に係る業務の実績について	
②中期計画に関する事項のうち、大学共同利用機関法人の経営に関するもの	第1回	平成24事業年度に係る業務の実績について	
③年度計画に関する事項のうち、大学共同利用機関法人の経営に関するもの	第4回	平成26年度年度計画の策定について	
④経営に関する重要な規則の制定又は改廃に関する事項(会計規程、役員報酬規程、職員の給与及び退職手当の支給基準、就業規則、職員の任期等に関する規則、安全管理規則など)	第2回	就業規則等の改正について	
	第3回	情報・システム研究機構組織運営規則の改正について	
	第4回	組織運営規則の改正について	
	第4回	就業規則等の一部改正について	
	第4回	共同研究規則、受託研究員規程の改正について	
⑤平成26年度予算	第1回	平成26年度概算要求について	
	第3回	平成26年度予算編成方針(案)について	
	第4回	平成26年度機構内予算配分案について	
⑥平成24年度決算	第1回	平成24年度決算について	
⑦組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項(自己点検・評価のうち、組織及び運営の状況に関する事項など)	第1回	平成24事業年度に係る業務の実績について	
⑧その他大学共同利用機関法人の経営に関する重要事項	第1回	情報・システム研究機構長選考会議委員の選出について	
	第2回	施設・環境整備計画について	
	第2回	平成25年度補正予算編成方針について	
	第3回	機構長選考会議委員の選出について	
	第3回	本部組織の改組について	
	第4回	常勤理事の基本給月額の改正に関する取扱いについて	
	第4回	施設・環境整備計画の変更について	

経営協議会の機構外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

具体的意見・指摘等	改善状況(改善取組事例)
ジェンダーフリーについては頑張ってもらいたい。日本は国際評価ではずいぶん下の方にランキングされていることから、ぜひここで男女比を上げていてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・女性研究者の増員施策については喫緊の課題として捉えている。また、今年度採択された「研究力強化実現構想」では、URAを配置すると共に、女性研究者の数値目標を掲げ、各研究所の協力の元その実現に向けて進めることを考えている。(5年後17%以上、10年後20%以上) ・男女共同参画委員会では様々な取り組みを検討している
新領域融合研究センターについて、少しマンネリ化してきているようなので、再度若い人材を中心に採用するようにし活性化して欲しい。将来どのようにアピールするかすぐには出てこないが、特にビッグデータの取扱いも含めて、日本の力がアピールできるように期待している。	<ul style="list-style-type: none"> ・融合センターでは、本年データ中心科学リサーチコモンズ事業の推進に伴い、従来の6つのプロジェクトの内データ基盤とモデリング・解析基盤を分離し、4つの融合プロジェクトに改編を行った。若手研究者の人材育成は重点事項として捉えている。 ・URA(広報担当)を活用して成果のアピールの方策を検討し準備中である。 ・2月には融合プロジェクト合同による研究発表会「冬合宿2014」を開催し、顕著な成果に関する発表を行うと共に、第二期のまとめと第3期の方向性を議論することとしている。
JSTで、産学連携の提案を評価する機会があった。大体の提案は研究のための研究という面があり、それを無理やり産業界と結び付けるということは、予算をつけてもあまり育たないのではないかと感じた。一部には光るものもあったが、概ね良い評価が与えられなかったこともあり、研究を始める段階から先生が出口を導くということに意識をして研究をしてほしい。学術的にも非常にいいが、優れた学術成果を産業界と一緒に起業化していくというようなケースも、数は少なくとも出て来てほしいところである。あまり出口のことばかり考えるのはバランスの問題もあるが、この機構でも産業界との連携やイノベーションにつなげる必要性という意味で、出口についても考えて欲しい。	機構全体にURAを配置し研究力強化を図る中で、民間等から有用な人材をURAとして採用するなど、今後産業界との連携を深めていきたいと考えている。

経営協議会の機構外委員からの意見を積極的に取り上げるための体制・取組例等

経営協議会の中でフリーディスカッションの時間を設け、活発な意見交換が出来るように工夫を行った。